

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進

2016年10月25日

第1号

教育指導課教育課程係

アクティブ・ラーニング普及支援事業について

仙台市教育委員会では、平成28年度から、市内小・中学校の「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進するため、各行政区に1～2校の「拠点校」を設けています。拠点校は、研究授業の公開や実践報告等を通じて自校の成果や知見を他校へ提供するなど、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進役となるような取組を行っていきます。

〔平成28～29年度指定の拠点校〕

【小学校】 ・広瀬小（青葉区） ・六郷小（若林区） ・高砂小（宮城野区）

【中学校】 ・五橋中（青葉区） ・八木山中（太白区） ・加茂中（泉区） ・南光台中（泉区）

今後、拠点校での研修会や研究授業の様子、講師の方の資料（公開可の場合）等、本事業に関する情報をホームページ上にアップしていきたいと考えています。詳細が確定次第、各校へお知らせします。

「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ」P46 から抜粋

中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会：平成28年8月26日

「主体的・対話的で深い学び」の実現とは、以下の視点に立った授業改善を行うことで、学校教育における質の高い学びを実現し、学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的（アクティブ）に学び続けるようにすることである。

- ① 学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。

子供自身が興味を持って積極的に取り組むとともに、学習活動を自ら振り返り意味付けたり、身に付いた資質・能力を自覚したり、共有したりすることが重要である。

- ② 子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているか。

身に付けた知識や技能を定着させるとともに、物事の多面的で深い理解に至るためには、多様な表現を通じて、教職員と子供や、子供同士が対話し、それによって思考を広げ深めていくことが求められる。

- ③ 各教科等で習得した概念や考え方を活用した「見方・考え方」を働かせ、問いを見いだして解決したり、自己の考えを形成し表したり、思いを基に構想、創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているか。

各教科等で習得した概念（知識）や考え方を実際に活用して、問題解決等に向けた探究を行う中で、資質・能力の三つの柱に示す力が総合的に活用・発揮される場面が設定されることが重要である。教員はこの中で、教える場面と、子供たちに思考・判断・表現させる場면을効果的に設計し関連させながら指導していくことが求められる。

※裏面へ続きます。

○ これら「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の三つの視点は、子供の学びの過程としては一体として実現されるものであり、また、それぞれ相互に影響し合うものでもあるが、学びの本質として重要な点を異なる側面から捉えたものであり、授業改善の視点としてはそれぞれ固有の視点であることに留意が必要である。単元や題材のまとまりの中で、子供たちの学びがこれら三つの視点を満たすものになっているか、それぞれの視点の内容と相互のバランスに配慮しながら学びの状況を把握し改善していくことが求められる。

児童生徒の多様な見方や考え方を育成するための研修会

■ 仙台市立六郷小学校

■ 仙台市立広瀬小学校

9月9日（金）、仙台市立六郷小学校（菅原 弘一 校長先生）を会場に、児童生徒の多様な見方や考え方の育成を目指した研修会が行われました。当日は、NHK放送文化研究所の宇治橋 祐之 主任研究員が講師として来校され、「放送教材を活用した『考える道徳』の授業」をテーマに講話をいただきました。宇治橋先生からは、道徳的実践力を高めるための道徳番組の活用法について、授業の流れを想定しながら具体的な話がありました（別表）。

別表「学校放送番組の使い方」

研修会には、六郷小学校の先生方のほか、近隣小・中学校の先生方も参加され、充実した研修が行われました。

	導入で使う	展開で使う	まとめで使う
授業時間	関心・意欲・態度を高める	思考・判断を揺さぶる	知識の定着を図る

また、10月7日（金）には、仙台市立広瀬小学校（真壁 淳一 校長先生）を会場として研修会が行われました。当日は、慶應義塾大学の鹿毛 雅治 教授が講師として来校され、「主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）を目指し、子どもとともに授業をつくりあげる教師」をテーマに講話をいただきました。鹿毛先生からは、大きく次のことについての話がありました。



鹿毛先生の講話の様子

- ① 主体的な学びとは「没頭」と「思慮深さ」⇒ 子どもたちの思考が活性化するような教材研究が必要。主体的な学びは「集中・熱中・夢中」の中にある。
- ② 「没頭」と「思慮深さ」の心理学（感性と悟性）⇒ 感性とは総合的に感知される体験で培われる。体験したことを振り返り言語化することで、悟性（理解）が深まる。
- ③ 「学ぶ力」を育むために ⇒ 振り返ることを繰り返し指導することで思慮深さが身に付き、物事を見通す力も育っていく。このことが、学びの本質へと結び付いていく。

研修会には、学期末にもかかわらず、市内小中学校100名を超える先生方が参加され、鹿毛先生の説得力ある話に真剣に耳を傾けていました。